

環境経営レポート

作成日2024年04月1日

有限会社 池田鍍金工業所

活動期間（2023年2月～2024年1月）

営業品目

- * マイクロポーラスクロム
- * 装飾クロム（三価・六価）
- * 硬質クロム
- * ニッケル
- * 銅下ニッケル
- * 黒染め
- * 無電解ニッケル（鉛フリー）
- * スズニッケル合金（黒）
- * SUS電解研磨
- * 各種金属バフ研磨
- * 振動バレル研摩
- * ブラスト加工
- * 各種金属脱脂洗浄処置

営業品目及び目次	P.1
I・取組の対象組織・活動の明確化	P.2
II・環境経営方針	P.3
III・エコアクション21組織図	P.4
IV・環境経営目標	P.5
V・環境経営計画	P.6
VI・環境経営目標の実績	P.7
VII・環境関連法規等の取組結果とその評価、次年度の取組 内容	P.8
VIII・環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並び に違反・訴訟の有無	P.9
IX.代表者による全体評価と見直しの結果	P.10

I -取組の対象組織・活動の明確化

1 事業所名及び代表者名

有限会社 池田鍍金工業所

代表取締役 池田 敏志

2 所在地

本社工場 茨城県筑西市下江連字新田1280-10

3 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 池田 将人

連絡先 : TEL 0296-26-6222

: FAX 0296-26-6223

: E-mail ikedamekki@ec4.technowave.ne.jp

4 事業内容

金属部品の各種表面処理（鍍金）

5 対象範囲

本社（本社工場及び第2工場）

6 事業規模

2021年度：2021年2月～2022年1月

2022年度：2022年2月～2023年1月

2023年度：2023年2月～2024年1月

活動規模	単位	2021	2022	2023
売上高	百万円	298	344	285
従業員	人	28	28	28
床面積		877	877	877
敷地面積		1980	1980	1980

* 平成24年度に第2工場新設（特定施設）

Ⅱ-環境経営方針

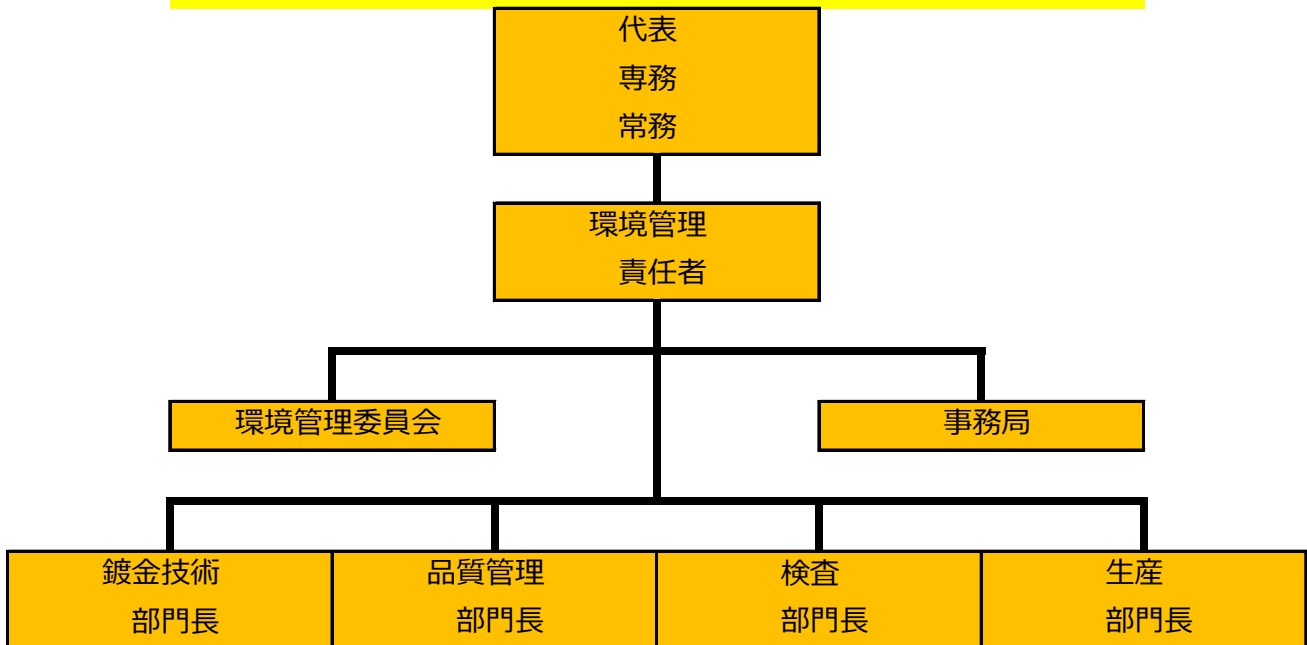
環境経営方針

当社は金属表面処理を行っていく中で環境に優しい物作りを目指し、持続可能な発展を実現するため私たち池田鍍金工業所は全従業員一丸となり、技術的・経済的に可能な範囲で環境負荷の削減に努めます。

- 1.環境に関する法規制及びその他の要求事項を順守すると共に、環境マネジメントシステムを持続的に改善し、全従業員へ周知いたします。
- 2.生産活動で排出される資源等は可能な限りリサイクルし、環境保護活動に努めます。
- 3.生産活動では経営における課題とチャンスを明確化し、弊社の強みを活かした活動を心掛ける。

2022年10月15日 改定
有限会社 池田鍍金工業所
代表取締役 池田 敏志

Ⅲ-エコアクション21組織図



役割、責任及び権限

代表 ・環境経営システム運用を可能にする、人的、専門的技術・技能、及び資金等の資源を用意し利用できるようにする。

・EMSを効果的に運用するための組織及び役割決定し、環境責任者を任命する。これは、全従業員へ周知させる。

専務 ・代表者が不在の場合、代表者に代わり環境経営システムを円滑に運用する。

常務 ・代表、専務が不在の場合、代表者に代わり環境経営システムを円滑に運用する。

環境管理責任者 ・環境経営システムの構築及び運用上の責任者としての役割を担い、代表者にEMSの実績を報告するものを含む、EMS文章によって定められたものとする。

事務局 ・環境経営システム運用に関わる、データの収集、入力を行い環境管理責任者を補佐する。

部門長 ・部門のEMSの運用の責任者としてEMS文章によって定められたものとする。

環境管理委員会 ・代表者を委員会として「環境経営システム運用組織図」の部門長以上で構成し、四半期毎に開催する。議事内容は、以下のことを含めて行う。

- ①EMSの制定及び改定に伴う審議及び決定
- ②環境目標の設定及び見直しに伴う審議及び決定
- ③EMSの運用状況と問題点の報告及び審議
- ④その他重要事項の報告、審議又は決定

IV-環境経営目標

チェック日2024年4月1日

チェック者 池田将人

目標項目		中期目標（当年度を含む）				関係部門	責任者
目標項目	基準年/ 実績値	単位	2023年度 (2023年2月～ 2024年1月)	2024年度 (2024年2月～ 2025年1月)	2025年度 (2025年2月～ 2026年1月)		
			目標値	目標値	目標値		
CO2排出量の削減	2018年度 実績1465	Kg-CO2	3%削減 1421	3%削減 1421	4%削減 1406	全部門	池田美明
廃棄物排出量の削減	2018年度 実績55.1	t	53.4 2%削減	53.4 3%削減	52.9 4%削減	品質管理 部門	池田将人
水使用量の削減 売上高100万円 当たり	2018年度 実績64.6	m ³ /百万円	62.66 3%削減	62.66 3%削減	62.02 4%削減	鍍金部門	池田将人
化学物質の 適正管理	-	-	適正管理	適正管理	適正管理	鍍金部門	池田敏志
生物多様性保全 への取組（敷地 の緑化面積増設	2018年度 敷地面積 1980m ²	%	敷地の緑化 を維持管理	敷地の緑化 を維持管理	敷地の緑化 を維持管理	全部門	池田喜美子

* 適正管理とは、めっき槽の濃度を適正な値に維持する。

V-環境経営計画

1 CO₂排出量の削減 売上高100万円当たり3%削減

- * 手動のリフトを出来る限り使う
- * 休み時間内の作業場所は消灯する
- * 作業を行っていないめっき槽はヒーターを止める
- * 不良品の削減（品質の向上）

休憩時間（10：35～10：55の間 15分間）
（12：00～13：00 1時間）
消灯、節電等のチェック

2 廃棄物排出量削減 3%削減

- * 排水処理の汚泥を天日乾燥する
- * 無電解ニッケルの管理を適切にし、交換頻度を長くする
- * 不良品を少なくして、剥離剤の使用を削減する

3 水の使用削減 売上高100万円当たり3%削減

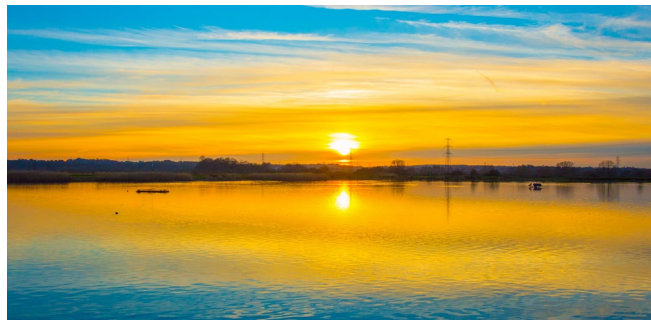
- * 休み時間内はめっき工場の地下水のバルブをしめる
- * めっき作業を行っていない水洗槽のバルブはしめる
- * めっき工場内の水洗槽の水量は排水基準内でバルブを調整する

4 化学物質の適正管理

- * めっき工程内のめっき槽は分析を行い、適正内に管理する
（適正内に管理することにより没出し時にめっき液の消費を軽減する）

5 生物多様性保全への取組

- * 敷地の緑化を維持管理（奉仕作業を含む）
- * 赤い羽根募金活動



VI-環境経営目標の実績

目標項目			目標値	実績値	達成率
目標項目 実績値	基準年/ 実績値	単位	2023年度		
CO ₂ 排出量の削減 売上高100万あたり	2018年実績 実績1465	Kg-CO ₂ / 百万円	1421	#REF!	目標 未達成
廃棄物排出量の削減	2018年度 実績55.1	t	53.4	54.9951	目標 未達成
水使用量の削減 売上高100万あたり	2018年度 実績64.6	m ³ /百万円	62.66	#REF!	目標 達成
化学物質の適正管理	-	-	-	適正管理(適正管理とはめっき槽の 濃度を適切な値に維持する)	目標 達成
生物多様性保全への取組 (敷地の緑化面積増設)	2018年度敷地 面積1980m ²	%		維持管理	目標 達成

- * 目標値2022年度（2022年2月～2023年1月）
- * 購入電力の排出係数0.455（kg－CO₂/kwh）
- * 基準年2018年度東京電力エナジーパートナー

VII-環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

実績結果 ○：実施した △：概ね実施した ×：実施しなかった

2023年度（2023年2月～2024年1月）

評価結果 ○：目標達成 △：目標達成率80%以上 ×：目標達成率80%未満

* 各環境目標は売上に影響を及ぼしますので売上が低い場合は目標未達成の傾向になり、産業廃棄物・化学物質s葉使用量は減り、リサイクルは減少します

目標項目	目標の達成手段	実施結果	評価	評価結果
CO2の削減	* 手動のリフトを出来る限り使う	○	目標達成	○
	* 休み時間内の作業場は消灯する	○	目標達成	○
	* 作業を行ってないめっき槽ヒーターはとめる	○	目標達成	○
	* 不良品の削減（品質の向上）	○	目標達成	○
廃棄物排出量の削減	* 排水処理の汚泥を天日乾燥する	○	目標達成	○
	* 無電解ニッケルの管理を適切にし、交換頻度を長くする	○	目標達成	○
	* 不良品を少なくして、剥離剤の使用削減する	○	目標達成	○
水の使用削減	* 休み時間内はめっき工場の地下水のバルブを閉める	○	目標達成	○
	* めっき作業を行っていない水洗槽のバルブを閉める	○	目標達成	○
	* めっき工場内の水洗槽の水量は排水基準内でバルブを調整する	○	目標達成	○
化学物質の適正管理	* めっき工程内のめっき槽は分析を行い、適正内に管理する	○	目標達成	○
生物多様性保全への取組 （緑化敷地を維持管理）	* リサイクル（社内循環的資源も含む）での雑収入で緑化を維持管理する	○	目標達成	○
	* 赤い羽根募金活動	○	目標達成	○

次年度の取組内容

目標			目標値	削減率	取組事項
目標項目	基準値/実績値	単位	2023年度		
1.CO2排出量の削減 売上高100万円当たり	2018年度 実績1465	Kg-CO2/ 百万円	1421	3%	・ 手動のリフトを出来る限り使う ・ 電気使用量の削減（照明LED交換） ・ 重油使用量の削減 ・ 不良品の削減（品質上の向上）
2.廃棄物廃棄量の削減	2018年 実績55.1	t	53.4	3%	・ 排水処理の汚泥を天日乾燥する ・ 無電解ニッケルの管理を適切にし、交換頻度を長くする ・ 不良品を少なくして、剥離剤の使用を削減する
3.水の使用量 削減売上高 100万円当たり	2018年度 実績64.58	m ³ /百万円	62.66	3%	* 休み時間内はめっき工場の地下水のバルブを閉める * めっき作業を行っていない水洗槽のバルブを閉める * めっき工場内の水洗槽の水量は排水基準内でバルブを調節する
4.化学物質の適正管理	—	—	適正管理（適正管理とはめっき槽の薬品濃度を適切な値に維持すること）	—	・ めっき工程内のめっき槽は分析を行い適正内に管理する
5.生物多様性保全への取組	2018年度 敷地面積 1980m ²	%			・ リサイクル（社内循環的資源も含む）での雑収入で緑化を維持管理する ・ 赤い羽根募金活動

VII-環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反・訴訟の有無

環境関連の遵守状況の結果は下記の通りです。

また、訴訟については過去3年間ありません。

チェック日 2024年2月1日

適用法令・条例・協定等

チェック者 池田 将人

法令名称	主な該当する活動	評価項目	
廃棄物 処理法	廃棄物処理業社との契約書締結	☐ 委託契約書の所在	遵法
	マニフェスト伝票の発行、適用	☐ マニフェスト伝票の適切な発行	遵法
		☐ 5年間の保管	遵法
	一般ゴミの排出（事業系一般廃棄物）	☐ 委託契約書の有無	遵法
消防法	消防用設備	☐ 消防設備届出書発行確認	遵法
		☐ 総合点検の実施状況	遵法
		☐ 機器の点検の実施状況	遵法
	危険物の保管	☐ 少量危険物貯蔵届出	遵法
水濁法 茨城県生活 環境保全 条例	排水処理（工程系排水：排水処理 施設：鍍金設備に含む）	☐ 設置許可	遵法
		☐ 変更の許可	遵法
		☐ 水質汚濁防止法点検結果	遵法
		☐ 有無物質の貯蔵・構造等の定期 点検	遵法
		☐ 月1回5物質の濃度測定と排水総 量の報告	遵法
浄化槽法	排水処理（生活排水：浄化槽）	☐ 設置届出	遵法
		☐ 浄化槽法検査結果	遵法
		☐ 定期点検	遵法
労安法	フォークリフト	☐ 定期点検	遵法
		☐ フォークリフト技能講習終了	遵法
大気汚染 防止法	ボイラー設置	☐ 設置届出	遵法
		☐ 水質検査2ヶ月毎	遵法
グリーン購入法	事務用品	☐ 事務局での管理	遵法
REACH規則ROHS規制	鍍金製品	☐ 製品含有化学物質管理	遵法
毒劇物法	鍍金薬品	☐ 施錠保管、在庫管理	遵法
公害防止 組織法	鍍金薬品（排水処理）	☐ 公害防止管理者設置（水質）	遵法
PRTR法	特定化学物資の排出	☐ MSDSの設備	遵法

IX-代表者による全体評価と見直しの結果			チェック日 2024年4月1日	
環境管理責任者から提供された情報		代表者のコメント		
①目標の達成度及び環境活動計画の実施状況		本年度はCO2と産業廃棄物の削減は目標達成出来ませんでした原因としては売上が思うように伸び無かったのが考えられる。特に黒染の待機時間は無駄が多かった		
②法令等の遵守状況		無し		
③問題点の正処置及び予防処置の結果		無し		
④外部からの苦情等の受付結果		無し		
⑤法令等の動向		プラスチックの資源循環促進法が2022年4月から施行予定です。プラスチックの資源環境を促進し、プラスチックごみを減らす事で持続可能な社会を実現社会を実現することを目的とした法律です。当社でも対象となるものを捨てる量を減らすより「捨てる事を前提としない経済活動をおうること」を目標としましょう。		
⑥廃棄物排出量について		目標は未達成ではあったが製品の品質を上げる為に交換頻度を短くしたので産業廃棄物量は増加した		
⑦化学物質購入量について		目標達成		
⑧実施体制				
	環境経営方針	変更必要性 有 ○無		
	環境経営計画・ 目標実績	CO2排出量の削減：電力・A重油使用量の削減で他にも施策がないか検討しましょう		
		水の使用削減：適正である		
		廃棄物排出量の削減：適正でした		
		化学物質の適正管理：適正でした		
		生物多様性保全：工場内の敷地の緑化を管理してください		
EMSのその他の要素	変更の必要性 有 ○無			
経営における課題とチャンスの明確化				
	内部環境			
	強み		弱み	
	顧客との長い信頼取引がある		量産品の対応に限界ができています	
	バフ及びショットなどのめっき前処理を一貫して行える		作業現場レイアウトに余裕がない	
	めっき技術が高い		社員の定着が悪い	
	多品種少量生産にも対応している		作業現場の環境が悪い	
	ので幅広い顧客先のニーズに対応			
	外部環境	機会		
		バフ及びショットなどの前処理技術がある	安定した高品質を顧客先に提供待機する	作業現場レイアウトを工夫して更なる受注を目指す
		めっき対象金属は鉄の他、銅、真鍮、アルミ、SUSと幅広く処理可能である	少量生産でも品質を安定させる	作業現場の様々な環境を改善し、社員定着を良くする
		多品種少量	顧客先の急な受注にも素早く対応する	多品種少量生産により事務処理・電話で納期回答など手間かかる
		脅威		
		顧客からのコストダウン依頼	生産活動では業務効率によるメリハリを効かせた作業環境への取組を心掛け顧客からのコストダウン依頼の要望にも対応	現状状況だと自動機ラインなど新設するスペースもなく、現状維持が精一杯
		人件費、法人税アップなどの高コスト化	外国人研修制度、パートタイマーなどローテンション化	多品種少量生産が多い為、不具合品が発生したりと上手くいかない